



TAMURA Saki

田村 沙紀 氏

【Profile】

2011年3月 教育学部人間発達科学科卒業。

愛知県庁職員。

小学生の時から教員に興味があつて教育学部を志望しました。名古屋大学を選んだのは、教育学の様々な分野を網羅したカリキュラムに魅力を感じたからです。そこでの学びは将来の可能性を広げられると思いました。

2012年取材

学部ではどんなことを学びましたか？

学校のことだけでなく、教育行政の仕組み、海外の教育制度などについて幅広く学びました。教育学を入口に、今の日本や世界について多様な視点から考えられたと思います。

私の専門領域は教育行政学でした。「貧困に苦しむ人たちに対して、教育の平等が実現していない」という話を講義で聞いて、自分のものの見方は変わりました。教育を満足に受けられない人がいるなんて、それまでの自分は考えたこともありませんでした。普段は見えない社会的課題を意識するきっかけだったと思います。卒業論文では、公立高校の授業料無償化を取りあげて、教育の平等について考察しました。大学で芽生えた問題意識を深く掘り下げることとなりました。

学部での学びで一番印象深かったことを教えてください。

教育行政学の講義を受けて、自分がいかに裕福な生活をしてこられたかに気づきました。メディアで報じられるよりもシビアな貧富による教育格差の実態を知ること、社会を見る目が変わりました。教育の問題は、身近なようで実は見えていない部分もたくさんあるのだと分かりました。学校だけでなく、様々な視点から教育を考えることで、現代社会そのものを考えるきっかけを得られました。

現在の仕事について教えてください。

愛知県庁で、交通安全の啓発活動をしています。主な仕事は、交通安全ポスターの企画、イベントでの広報ブース出展など、交通安全意識向上のための情報発信です。広告制作会社と協力して、「どんなメッセージを打ち出すか」「モデルを誰にするか」などを検討し、広報物を作り上げます。イベントでは、ゲームで交通安全を学んでもらったり、シミュレーターで事故体験をしてもらったりしています。子どもから年配の方まで、たくさんの人と触れ合い、広報活動への反応を直接見られる仕事です。日々、より効果的な情報発信の方法を試行錯誤しています。

大学での経験は仕事で生かされていますか？

卒業論文では、公文書をはじめ多数の資料を使用しました。それまで公文書を手にとったこともなく、必要な資料の調べ方も全く分かりませんでした。指導教員に資料の探し方、読み方を一から教わり、必要な情報を手に入れる方法を身につけました。公務員の仕事では、日常的にたくさんの公文書を取り扱います。卒業論文での経験が、業務上で資料を活用する際にも活かしていると実感しています。